



静岡県の造船所から運び込まれ、復元遣唐使船の甲板に据えられた2つの屋形棟=26日、奈良市の平城宮跡会場予定地で

遷都祭主会場の復元遣唐使船

甲板に屋形棟ドッキング

平城遷都1300年祭主会場の平城宮跡会場(奈良市)の「目玉」となる遣唐使船復元展示の工事で26日、船体甲板上部に屋形棟を据え付ける作業などが始まった。担当の平城遷都1300年記念事業協会は今後、マストや帆などを2月上旬までに設置、同月下旬から塗装を行うなどとして、3月中旬に完成させる。

マストや帆も設置へ

静岡の造船所から到着

復元遣唐使船の製作は、古代船の復元で全国唯一の技術を持つとされる静岡県松崎町の岡村造船所が請け負っており、上部の屋形棟

3棟、マスト、帆などは26日朝、トレーラ12台で現地に到着。このうち、組み上がった屋形棟2棟がクレーンで、既に組み上

げられた船体甲板に据えられた。同造船所の作業員12人も一緒に来県し、早速、屋形棟の取り付け工事などを行った。なお、遣唐使船復元現場南側に隣接して県が一体的に建設中の平成

約7割が県で消費されている。生産は11月か出来上がっており、内装などが進められてい

る。同館も3月中旬に完成予定。

旬は1月から2月下旬までという。